

仁王門と金剛力士像

仁王門は圓教寺の正面玄関である。書寫山の東端にあるメインルートの終点に位置し、寺院の神聖な領域と外の俗世の間の象徴的な分かれ目を示しています。仁王門は間口三間幅、奥行き二間（三間一戸の八脚門）、古典的な建築様式である。外側から眺めると、瓦葺き屋根には中央に一層の大屋根が見られる。しかし参拝者は、その下から、2つの三角錐の補助屋根が隠れているのを見ることができる。この独特な設計は「三棟造り」と呼ばれ、東大寺や法隆寺など、日本最古の寺院のいくつかにだけ見られる様式である。

門の両側には二つの部屋がある。それらの中には、右に那羅延金剛像（ならえんこんごう）、左に密迹金剛像（みっしゃくこんごう）が安置されている。これらの金剛力士像は、筋肉隆々激しい表情で、仏法を守護し、外敵を追い払うために十分な大きさである。この二体の像は、「阿」と「吽」と呼ばれている。その由来は、サンスクリット語のアルファベットの最初と最後の文字に由来している。ちょうど古代ギリシャ語のアルファとオメガの概念の如く、「始まりと終わり」を意味し、普遍性と全能性を象徴している。また「金剛力士」としても知られ、この善の神が東南アジアのお寺の門を守っている姿はよく見られる。